

# 令和元年度 みやまの森こども園 職員自己評価

## 教育保育理念

園における生活を通じて生きる力を育成するよう努め、義務教育及びその後の教育の基礎を培うとともに、保護者と共に園児を健やかに育成するものとする。

【評価 5:できている 4:ほぼできている 3:どちらともいえない 2:あまりできていない 1:できていない】

	質問内容	評価	評 価
教育課程・指導	園の教育保育目標を理解し、実践している。	4.0	園の教育理念や年間目標を理解し、実践しようとする意欲は高い。 また、職員間のチームワークや連携の重要性を理解し、各自が積極的に連携を図ろうとしている様子が窺える。 但し、到達度については、自らが目指しているレベルには至っていないと評価し、更なる努力を要すると考えている職員が多い。
	年間目標を理解し、実践している。	3.8	
	園児への個々に応じた指導・関わりは適切である。	3.9	
	運動会・発表会等各種行事は計画に基づいて適切に準備できている。	3.8	
	職員間のチームワークや、連絡体制等、連携ができている。	4.1	
	子ども達のしたいことや、興味のあることを取り入れている。	4.3	
	研修・研究への意欲・態度は適切である。	3.8	
環境・安全管理	安心・安全を第一に考えて、環境整備や園児自身が安全に気をつけて行動できるように援助できている。	4.2	教育目標を安全かつ効率よく達成するには、環境構成や安全管理が重要であることを全職員が意識して取り組んでいる。各自が担当する部署の改善点の把握もできているが、職員各自の性格による意識差があるため、課題について共通理解することが必要である。
	子どもたちの思いや言動を参考にしながら、クラスの装飾や展示を考えている。	4.0	
	体調不良児への対応や、投薬の流れ、ルールの把握と実行には配慮して対応することが出来ている。	4.1	
	緊急時(事故・感染症の発生時など)の対応などの体制が整備されている。	4.0	
子どもとの接し方	その場にふさわしい言葉遣いや、すべての子どもに平等に接している。	4.2	全職員が、園児一人ひとりの個性や家庭環境にあわせた対応や声がけを心掛けている。年齢・場面に応じた振舞いができない園児に対し、遊びなどの主体的な取り組みの中でルールを身に付けられる様な対応が課題となる。
	家庭での様子や発達の個人差を考慮し、子どもの思いを大切に援助を工夫している。	4.2	
	遊びを通してルールを学んだり、子ども達が主体的に楽しく行動できるようにしている。	3.7	
保護者との連携	保護者への情報の発信と受信は適切である。	4.0	保護者との連携の重要性を理解し、口頭やお便り、ノート等により積極的に情報共有を図っており、ほとんどの保護者と円滑に連携が取れている。こども優先の園の理念を受け入れない一部保護者との信頼関係構築が今後の課題
	園だより、クラスだよりの内容や配布頻度、時期は適切である。	4.5	
	園全体で協力、支援体制ができ、保護者対応は適切である。	4.2	
食事の提供	献立は、旬の食材を使い、バランスの良い給食を心掛けている。	4.5	職員が、乳幼児期の食の大切さを理解するだけでなく、給食時の言葉かけや園畑での野菜の栽培体験等の食育活動を通して、こども自身が、食の大切さ・命を頂くことの意味を学ぶよう配慮している。また、アレルギー児の対応については、全職員が問題意識を有しているが、その程度には差があり、提供方法や現場と給食室との連携に改善の余地を感じている。
	自園で収穫した野菜を工夫しながら給食に取り入れている。	4.1	
	アレルギー対応児の食事提供は、問題なかった。	4.0	
	担当者間のチームワークで、子どもたちに喜ばれる食事・おやつを提供に努めた。	4.0	
	衛生面の徹底に努めた。	4.3	
その他	子育て支援の利用者に配慮し、楽しく親しみやすい雰囲気づくりを大切に行っている。	4.3	日頃から、専門職として、園児や保護者はもちろん、外来者や同僚に対しても、丁寧かつ上品で思いやりのある対応を求めていることもあり、誠実な職員気質が形成されている。また教育・保育に集中できるよう、体調管理を含めたプライベートと職務の両立に配慮していることも落ち着いた園風に繋がっていると考えられる。半面、地域への、より効果的な情報発信が今後の課題となる。
	地域への情報発信や交流・連携は積極的に行われている。	3.6	
	遅刻等ないように就業規則を理解し、誠意をもって業務遂行にあたっている。	4.8	
	健康面等、自己管理に気を付けている。	4.3	
	挨拶電話対応等外部への対応は適切に行っている。	4.1	